

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600017		
法人名	有限会社 モリ・ケア・サービス		
事業所名	グループホーム いわまの郷	ユニット名	Aユニット
所在地	〒319-0202 茨城県笠間市下郷6004-1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=089160017-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年10月28日	評価機関 決 済 日	平成27年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節の行事を積極的に行い、利用者様と職員が共に季節や自然を感じ、明るく笑顔を大切にして家庭的な生活が送れるよう日々の介護に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅街の一角にあるが、敷地の広さから事業所の周囲は視界が開け、利用者は敷地内の家庭菜園の野菜の成長を確認したり、遠くに愛宕山の山並みを眺めながら生活をしている。
管理者や職員は事業所の理念の他に「心配り、気遣いをする」や「普段の行動を大切にする」など、毎月の目標を定め、利用者との接し方や言葉かけなどについて話し合いをしたり、日々の支援を振り返ったりし、事業所の理念をより具体的な支援となるように努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が事業所の理念に基づき支援を行っており、月一回の会議や毎日の申し送りの際にも理念の確認と共有を行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げるとともに、管理者と職員は月1回の施設会議で理念について話し合い、理念の共有に努めている。 事業所の理念の他に「心配り、気遣いをする」や「普段の行動を大切にする」など毎月の目標を定め、具体的な支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアや利用者様の家族などのつながりから、レクリエーション活動などを行っている。また、外部からは自由に立ち寄ってもらっている。	近くのスーパーに買い物に出かけた際に地域の人達と言葉を交わしたり、定期的に地域の傾聴ボランティアや折り紙のグループを受け入れ、利用者との交流が出来るように支援をしている。 自治会に加入しており、地域の行事等は回覧板を通して知ることが出来るが、代表者を始め同じ自治会に住む職員がいるため、職員が地域行事等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を積み上げた経験や知識から、いつでも介護に関する相談や認知症に対する支援を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回家族等の代表や市職員、民生委員、元民生委員などに参加して頂き利用者様の状況や取組など報告等行い意見なども聞かせて頂いている。	運営推進会議は家族等の代表や民生委員、市職員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 運営推進会議は事業所の行事に合わせて実施することもあり、委員に事業所の現況を知ってもらったり、利用者との馴染みの関係になってもらっている。 委員に避難訓練の立ち会いをお願いした結果、消火器の配置図の必要性や外灯を付けた方が良い場所の提案など、活発な意見が出されている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市担当者に事業所の状況を伝えている。また、市主催の介護保険利用調整会議や地域包括ケア会議などに出席している。	地域包括支援センターで毎月実施されるケア会議に管理者が出席し、ケアサービスの取組みについて助言を受けたり、情報交換をしたりしている。 生活保護の利用者については年1回担当者の訪問があり、生活保護受給者の生活状況や事業所の運営状況を報告している。 事業所の状況については市担当者に電話で報告をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成してある。身体拘束をしない取組を全職員が把握し月一回の会議や毎日の申し送りなどで話しあっている。	管理者と職員は身体拘束の弊害について理解をするとともに、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めており、利用者は職員の見守りのもとで自由に生活をしている。 身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成するとともに、身体拘束に関する内部研修を研修計画に組み込んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成してある。日常の業務の中や毎日の申し送りなどで虐待についての理解や取組などを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の希望や必要に応じ使えるように支援している。また、会議等で勉強会を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書について、分かりやすく説明している。また、利用者様や家族などの質問や分からないこと、気になる事についても丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や電話連絡時には利用者様の状況をお話している。また、家族の要望や希望についても聞かせて頂き、申し送りや会議等で話し合い日常のケアに生かしている。	職員は利用者との日常的な関わりの中や、家族等の来訪時などに意見や要望を聴くように努めているほか、家族等からいつでも話しが聴ける体制を整えているが、無記名のアンケートを実施して利用者や家族等の意見を汲みあげるまでには至っていない。	家族会開催時に無記名のアンケートを実施し、利用者や家族等の意見を汲みあげるとともに、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議でケアに対する現状や提案などをあげて話し合い、業務に反映している。また、意見等があればその都度話し合いなどを行い業務の改善を行っている。	代表者や管理者、職員参加の施設会議を月1回開催し、運営に関する意見等を聞く機会となっている。 代表者は年2回職員と個別面談を行い、就労状況を含めた意見等を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務体制を維持し職員の資格所得により、給与水準の見直しを行っている。また、職員一人ひとりの個性や特技を生かしやりがいのある職場環境に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加することや施設内でのリーダー研修を月に一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	笠間市主催の連絡協議会への参加や社協の行事や勉強会に参加することで施設間の交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居する際は、以前の生活歴や身体の状態などを把握し、安心して過ごして頂けるよう、困っていること、不安なことについて一つひとつお聞きしています。また、希望等があれば生活の中に取り入れてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族等の要望に応えることで安心した生活を過ごして頂いている。また、困っていること、不安なことがあれば、利用者様、御家族様、職員同士などで話し合いながら最善の対応をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを利用者様や家族等との話し合いの中で決めている。また、生活の中でも必要と思われるサービスがあれば、利用者様や家族等と話し合いながら取り入れている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と暮らしを共にする関係を大切にし生活の中で本人が得意なことや好きなことを取り入れたりキッチンや掃除、洗濯なども出来る範囲で行って頂き、生活感を味わって頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆を大切にし、利用者様や家族等の希望があれば、いつでも面会や電話などで話しをしてもらっている。また、定期的な病院受診の際や体調の変化があれば、その都度家族等に連絡をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人には、いつでも面会や電話等で話しをしてもらい安心して頂いている。外出の希望などあれば、いつでも外出等行って頂き馴染みの人や場所を大切にしている。	事業所に利用者の友人が訪ねて来た際には、お茶を出して居室でゆっくり過ごしてもらうなど、馴染みの関係が継続できるように支援をしている。 利用者の希望にそって家族等の同行で自宅に外泊したり、馴染みのお店で買い物をしたりするほか、墓参り等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや季節毎の行事の中で、常に利用者様同士が関わり合い楽しめるよう支援している。また、職員が必要に応じ会話の中に入り話題作りなどにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了して、在宅に戻ったり施設に入所されたりした方など、何か困り事があれば、いつでも相談頂ける体制は整っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中での会話や習慣などを通して一人ひとりの思いや希望などの把握に努めている。また、言葉に出ない願いなどは表情や態度などから読み取れるよう努めている。	職員は日々の暮らしの中で利用者の行動や会話から思いや希望、意向を把握している。 把握した情報は連絡ノートや介護日記に記載して職員で共有している。 思いや意向の把握が困難な利用者については、フェイスシートで確認をしたり、家族等に電話で聴いたり、利用者の表情や仕草などから利用者本位に考えて支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談をさせて頂き、これまでの生活スタイルや本人の趣味や好みなどの情報を頂いている。また、いつでも利用者様や家族等から暮らし方などの話があれば、その都度話し等を聞かせて頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ノートやバイタル、食事、排泄チェック表などから一日の過ごし方や心身の状態などの把握に努めている。また、いつでも変わったことがあれば、連絡ノートや申し送りなどで全職員に伝えている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様にどのような暮らしたいか、家族にはどのように暮らして欲しいかを確認し、全職員と関係者などと話し合いを持ち介護計画を作成している。	利用者や家族等、職員の意見を反映した介護計画を作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に介護計画を作成しているが、カンファレンスについての会議録を整備するまでには至っていない。 支援経過を見ながら定期的に介護計画を見直すとともに、心身の状態の変化や利用者や家族等からの要望が変化した場合には現状に即した介護計画を作成している。	定期的カンファレンスを開催して会議録を作成することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の過ごし方や睡眠の様子など、気分や健康状態、気付いたことなどは個別ノートに記入している。また、その都度、職員間で話し合いを持ち実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況や家族からの意見や希望などから、その人に合ったサービスを提供している。また、新たなニーズがあればその都度話し合いを持ちサービスの見直しをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得て、傾聴ボランティアや折り紙などの指導を招き楽しみをもった生活が出来るよう支援している。また、利用者様の家族等などの協力を得て歌謡ショーやマジックショーなども開き豊かな生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の定期受診には、バイタル、食事、排泄の状況などの報告を行い適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診時には家族等に状況等をお伝えし安心して頂けるよう支援している。	協力医療機関のほかに、かかりつけ医の受診についても職員が付き添い、必要に応じて家族等にも同行をお願いしている。受診内容については家族等に電話で報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサインや表情などから利用者様の状況や気付きについて、申し送りや看護職員に伝えることや生活の中で変化があれば、その都度看護職員と相談を行い適切な看護や受診が出来るよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には日常の様子や体調の変化などを細かく伝え適切な医療が出来るよう支援している。また、定期的に病院関係者との情報交換を行い速やかに退院出来るように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてのマニュアルを作成し、家族等との話し合いの中で方針などを確認して頂き、同意したした中で支援させて頂きます。	事業所としては「重度化・終末期・対応指針承諾書」を基に、看取り介護は行わない方針であることを利用者や家族等に利用開始時に説明をして同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化してあり、発生時には慌てないように目の届くところに掲示してある。施設内で勉強会も行い訓練等実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対し訓練を行い、避難方法を身に着けると共にマニュアルも作成してある。職員の役割について話し合いを持ち、火災を想定した避難訓練を年二回実施し民生委員の方や近隣の家族等の参加して頂いている。	避難訓練を年2回実施しており、内1回は消防署立ち会いで夜間想定避難訓練を実施している。 緊急時には、代表者を含め近隣に住む職員が駆けつけられる体制を整えている。 避難訓練実施後に反省会を行い、「利用者を避難後は部屋のドアを閉めること」や「同じ部屋を何度も確認しない工夫」といった反省や課題を挙げて記録している。 非常時の備蓄品として倉庫に米や水、ビسケット等を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にもある尊敬と共感をもった対応をしている。特に声掛けには注意し一人ひとりを尊重し、その人に合った声掛けを行ってなっている。また、会話の中でも誇りやプライバシーを損ねないよう話題などにも注意している。	管理者と職員は利用者を尊敬し、言葉遣いなどに配慮して、一人ひとりの尊厳を大切に考えた支援をしている。 入浴時も一人ひとりに対応したり、トイレ誘導時の声かけのタイミングなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。 個人情報に関する書類については、事務室の所定の書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、何でも話しやすい雰囲気をつくり、話したい様子があればこちらからやさしく丁寧に傾聴等行い、思いや希望を聞かせて頂いている。また、自己決定できるように介助等を行う場合には一つひとつ声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全職員がその人らしい生活やその人に合った生活を把握し、一人ひとりの生活のペースを大切にしている。また、希望などがあればその都度お聞きし望んでいる生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の添った衣類を身に着けたり、おしゃれができるようにお手伝いさせて頂いている。特に愛着のあるものなどは、大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは出来る範囲で手伝って頂き、生活感を味わってもらいおいしく食事が出るよう支援している。	利用者は調理の下準備や下膳等の後片付けに出来る範囲で行っている。 職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じ食事を摂りながら、食べこぼしや嚥下に注意をして楽しい食事ができるように支援をしている。 毎月誕生会には特別献立として赤飯や混ぜご飯等を取り入れて提供したり、2ヶ月に1回料理教室として、ホットケーキやお好み焼きなどのおやつ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量は必ずチェック表に記入し、一日に必要な食事、水分量を摂って頂いている。また、一人ひとりに合わせた食事形態をとりおいしく食べて頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食後など定時に行っている。一人ひとり合わせた介助を行い、本人が出来るところではご自分で行って頂き、必要などころだけ介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて定時にトイレに行って頂いている。また、トイレの訴えあれば敏速に対応し排泄の自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄記録表で一人ひとりの排泄リズムを把握して、トイレへの声かけや誘導を行っている。 トイレ誘導時には利用者の自尊心を損なわないよう十分に配慮して声かけをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操やレクリエーションなどを行い運動を促している。一日に必要な水分量を必ず摂って頂くことや排泄パターンを把握することで便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせ、浴槽や機械浴を使用し全利用者様が入浴を楽しみ、やすらげるよう支援している。月、水、金の入浴日以外でも状況に合わせて入浴を行っている。	週2回の入浴を基本とし、利用者一人ひとりの体調や希望にそって入浴が出来るように支援をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いをせず、言葉かけの職員を替えたり、時間を変えたりして入浴ができるように支援をしている。 柚子を頂いた時は柚子湯にするなど、季節感を味わいながら入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には休憩をとって頂きゆっくり過ごせるよう支援している。また、希望や体調に合わせていつでも安心して休憩出来るよう支援している。夜間は、落ち着いて休んで頂けるよう声掛けなどにも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は利用者様ごとのファイルで管理し全職員が把握している。薬の変更や追加、減量などがあれば、申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をしている。また、薬の変更後などに体調の変化などが無いかの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活で培った得意なことや好きなことを活かしてもらい、その人に合った役割などを持って頂き楽しく過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事の中で季節感をあじわって頂ける所やショッピングセンターなどへ行き買い物などを楽しめるよう支援している。また、家族等の協力を得て自宅へ戻れることや知人に会いに行く機会を得ている。	年間の行事予定が立てられ、愛宕山の花見や菊まつり、イオンショッピングセンターへの買い物、大洗水族館等に出かけている。 利用者の希望にそった外出や外泊、外食等については家族等の協力を得ながら実施をしている。 天気の良い日には利用者と職員が事業所の周辺を散歩し、季節を肌で感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりしている小遣いの中からご本人の希望に応じ家族や職員同行のもと買い物などが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも家族や大切な人との電話や手紙などのやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある花や利用者様と職員と一緒に作った作品などが飾られている。廊下や居間には自然な光がやさしく入り、加湿器や空気清浄器も設置している。共用の空間は適切な温度管理を行い心地よく過ごせるよう支援している。	居間兼食堂は天井が高く採光も良く、清潔感が感じられる快適な空間となっている。 Aユニットには炬燵が配置できる畳のスペースがあるほか、Bユニットにはテレビの前にソファが配置され、利用者が寛げるスペースとなっている。 食堂や廊下には行事で出かけた時の写真や、折り紙教室で利用者と職員で制作した、季節に合わせた作品が飾られている。 建物南側に広いデッキテラスが設けられており、そこにテーブルを出してお茶を飲んだり、外気欲を楽しんだり、体操をしたりしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが落ち着ける席や場所で、気の合った同士が楽しんだり、自分のペースで思い思いに過ごせるよう支援している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族等の希望などをお聞きし思い出のあるものや好きなものを居室に置くことで、やすらいで過ごせるよう支援している。また、使い慣れた物や大切な物を置くことで、これまでの生活と変わらなく過ごせるよう支援している。	エアコンやベッド、整理箆笥が備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具やテレビ、机、仏壇等を持ち込んだり、家族等の写真や家族等から誕生日に贈られた寄せ書きなどを飾り、居心地よく暮らせるように工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に分かりやすく、名札を掲示し出来ることは必要以上に介入せず、温かく見守り自立した生活が送れるよう支援している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいわまの郷

作成日 平成 27年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	日頃から事業所に訪れた家族等や利用者様などからは意見や要望を聞き取り運営に反映させているが、家族会開催時に無記名のアンケートを実施することに至らなかった。	家族会開催時に無記名のアンケートを実施し普段は訪れない家族や利用者様などから意見を頂き運営に反映したい。	家族会に向けてアンケート用紙を作成しより良い意見を汲み上げると共に運営に反映したい。	平成27年9月から実施予定
2	26	3ヶ月毎のモニタリングや6ヶ月毎の介護計画は作成しているが、カンファレンスについての会議録を整備するまでは至っていない。	支援経過を見ながら定期的にカンファレンスを開催し会議録を作成する	利用者様の心身の状態の変化や希望や要望などを汲み取ることと、家族等からの要望の変化に即した介護計画を作成する。	平成27年3月から実施予定
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。